

## 第7回 第二期武蔵野市コミュニティ評価委員会

■日 時：平成17年10月14日（金）19：00～21：00

■会 場：市役所 603会議室

■出席委員：玉野委員長、小原副委員長、荒川委員、原委員、皆川委員、田中委員、檜山委員

■武蔵野市：事務局 市民活動センター所長ほか3名

### 1. 文化祭視察・運営委員会傍聴の日程について

各委員の文化祭視察と運営委員会傍聴の日程を確認した。また、各委員に報告書の執筆作業をしていただくが、担当するコミュニティ協議会については改めて割り振りを行なう。文化祭視察・運営委員会傍聴をしたコミュニティ協議会は候補となるので、意見交換会などでは気をつけて見ていただきたい。

### 2. 自己点検・評価表の回答結果と意見交換会について

【委員長】各コミュニティ協議会より、自己点検・評価表を提出していただいたので、ご意見、ご感想をお願いしたい。

【委員】協議会によって、自己点検・評価のやり方が少し違うと思う。

【委員長】やり方について何か聞いているか。

【事務局】多くの協議会が、運営委員に自己点検・評価表を渡し、それを回収し、委員長が集約したと思う。

【委員長】各自に評価をつけてもらうとかなりばらけるという印象か。それとも大体のところに集まってくるという感じか。

【委員】偏った意見が出てこなかったのも、まとめは単純に評価のチェックが多い方という捉え方で行なった。

【委員長】主観的な評価なので分かれることは避けられない。ある程度の数でやると大体のところ集中してくるという傾向が見られる。実は、この評価は大まかに分けてプラスとマイナスしかない。真ん中と、プラスとマイナスが2段階に分かれているだけである。3を挟んで4つに分かれているのは、ある程度分かれてはいるがどちらかには偏っている。それを挟んで3つぐらいで固まっていたら、これは大体こうだろうという見方をするしかない程度のものだと思う。

【委員】あまり「十分である」とか「不十分」というのはつけないと思う。胸を張ってやっているというのは、みんな内心じくじたるものがあるし、全くというのもどうかと思う。

【委員長】全部「十分である」についていたら困るのだが、少なくともこれだけ並んでいる項目のここには自信があるのだという思い入れの表れだと思う。

こういうものの見方は、どのようにぶれているかが非常に重要である。すごく高く評価している部分と低く評価している部分を協議会ごとに拾ってもらい、その実態がうま

く出ているかを考えながら見ていただくのがいいと思う。また、項目ごとの評価が矛盾している場合がある。片方で努力しているというが、片方は足りない。例えば、広報は頑張っているし、総会の呼びかけもやっているが、新しい委員の確保はできていないというところが結構ある。それには背景があり、頑張っているが、なかなか新しい人が入っていないという実情が見えてくる。

【委員】だから、頑張っているというところと実際にどうかというところを二段構えの項目にしてもらいたいという意見が出た。

【委員長】それを一つ一つやると大変だ。でも、項目ごとの評価のぶれや矛盾を見ていくと、多分そういう実態が見えてくると思う。意見交換会で「これはどういうことなのでしょう」とやりとりをして、「広報はこんなにやっているのになかなかみんなが関心を持ってくれないのは何でだろうか、何かいい方法はないだろうか」と意見交換できるのが一番望ましい。

協議会の皆さんはどのように自己点検・評価表を見ていたか。

【委員】「十分というのは、どういうことだ」という質問があった。

【委員長】意外だったのは自由回答がたくさんあったことだ。

【委員】多分、最終的には代表が意見をまとめることになると思うのだが、空気というのか、それは伝えたいということがある。

【委員長】少なくともこういう形で思い切って絞って渡した結果、自由回答で出してくれるものがあって、それはこちらとしては参考にできるし、かつそれは自分たちで努力して出している。その辺はうまくいったと解釈すべきだと思う。

【委員】こういう質問について自分で評価をつけている時に「やっぱりね」と感じているところが中にはあったのだが。

【委員長】そういう意味では、かえって効果が上がったと見ていいのか。いろいろ意見が出てきて、かつ、これを書く上で運営委員会の中で意見交換がされていれば、それは我々のねらいとしてはよかったことで、実際に意見交換会の中で「こうだった」「ああだった」という話が出てくると、こういう評価の仕方がどうなのかを考える上では非常にいいのかなという気がする。

【事務局】自己点検・自己評価が浸透してきて、このやり方についてはかなり共感を得ているなと感じた。

【委員長】結果を開陳して「こんなにぶれているよ」「こんなですよ」ということで、「ああでもない」「こうでもない」という話ができるのが、自己点検・自己評価としてはいいと思う。

【委員】スケジュール的に言うと2回運営委員会が欲しい。自己点検・評価表を運営委員に配り、説明し、そして、次回の会で話をしたい。

【委員長】同じようなやり方で続いていけば大分慣れてくると思うが。

【委員】皆、同じ感覚で評価をつけている訳ではないと思う。

【委員】辛めにつける人と甘くつける人がいる。

【委員】法や規約に基づき適正な運営かどうかというところは自信を持ってつけるのだが、対外的なことになると。

【委員長】総会の呼びかけなどはそれほど簡単ではないという結果が出ているので、それはきちんと出た。確かに「法律の順守」の項目は不十分とは書けないというのはわかる。

【委員】逆に悪ければ悪いと書くと思う。

【委員長】協議会同士で一番比較しなければならないのは、「地域の諸団体との連携やネットワーク化を進めていますか。」の項目である。各団体との連携の評価を見て、地域の実情、状況や性質がうまく出ていけばいいなと思っている。意見交換会の時の題材にしてもらいたい。文化祭の視察などで「もう少しこういうところと連携すればいいのに」と思っていたところや「非常に元気にやっていて、連携できているのだな」という印象を持ったところを見ると、それなりに評価がぶれているかなという気がして、実情を反映しているのではないかと思う。そのような目で見ただけだと、意見交換会の時にアドバイスができると思う。

【委員】見事に出ているのは、隣り合わせのコミセンの片方には民生委員で運営委員をやっている人が何人かいるが、もう片方のコミセンにはいなく、福祉の会を通じて民生委員との関係はあるが、コミセンとして直接連携をとっていることはない。話し合いの中で出たが、地域として直接民生委員と連携をとるというよりはいいのではないかという話になった。

【委員長】ある特徴を反映しているということで、これはよくわかるのではないか。他の協議会を見て「あそこはこうだな」という形でいろいろ考えるのもおもしろいのではないか。

【委員】文化祭の視察だが、評価委員に来ていただいた時がすべてではない。協議会から来てほしい時間帯についての要望はないか。

【事務局】そのことを議論し始めると切りがないと思うが。

【委員】それはわかるのだが、文化祭は何となく雰囲気があるので、それだけではないということと言いたかった。

【事務局】運営委員会の方が正確に雰囲気をつかめると思う。評価委員にコミセンの窓口や事業などすべて見てほしいというのが皆さんの思いであるが、そこはある程度、限界性を踏まえた上で、今後の評価の一助にするということで考えてほしい。

【委員】今回、これをやるにあたって負担に感じたということはなかったか。

【委員長】今回の方が、1つの段階としてはわかりやすい作業で、ふつふつと出るものを書くという形なので、そう負担はなかったかなという気がする。全体に見てどうか。

【委員】前は自分のコミュニティ協議会をわかってもらうようにアピールしなくてはというのですごくしんどかった。今回は評価のチェックをつけて、ある意味では自己評価でいいということなので前回より負担はなかった。

【委員長】今後、傍聴や視察に行く時に評価表を見ていただけるといいのではないかと思う。それを踏まえて、意見交換会という形で、自己点検・自己評価の作業に評価委員も

加わり、さらにどのような形で進めることができるか。

前は最初だったので、それぞれのコミセンにまずは何分か話してもらったが、今回は評価表を見て、すぐに我々が質疑応答に入っていくと思う。そのやり取りの過程で「こうだ」「ああだ」という話をされたかが出てくると思う。

【委員】その他に、評価項目などを変える必要があるか、評価の時期をいつ頃やるのがいいのかなどをこの辺できちんと決めて、その上で意見交換会に臨まないともまずいいのではないか。

【委員】我々自身の評価を行なうのは、その後でいいのではないか。

【委員長】報告書が出た後、フォーラムをやるべきだろうということになっていると思う。

各コミセンについて「こういうことを話してもらおう」「こういうところを確認しよう」ということを評価委員会として整理しておいて、その上で意見交換会に臨まないとも効率的にいかない。一つ一つここはこうだからということの評価委員会で話しておいて、意見交換会を迎えた方がいいと思う。

【委員】それぞれご自分の協議会の評価はわかっていると思うが、それをまとめた集計表を全部に配るのか。

【委員長】それも検討事項だ。最終的には見ることになるのだが、意見交換を含めて、最終的な原稿をどうするかはもう一度戻して調整してもらおうことになると思う。

【委員】出すとしたら絶対評価になってしまうのではないか。

【委員長】そういうふうを受け取られる可能性もある。こちらの方である程度の準備ができていて、やりとりをすれば、評価表を見なくてもそのやりとりの中で他の協議会の状況がわかると思う。この時点であまり出さない方がいいのではないか。最終的に公開される時の記録は、意見交換を含めてもう一度各協議会に戻し、最終的につけ直してもらおう。

【委員】プレゼンテーションがないとすると「個別に行なって済む話ではないか、なぜ全部集まってやりとりまでするのか」という意見は出るかもしれない。

【委員】コミュニティ協議会の立場から言えば、一覧表が出て、自分たちが悩んで「十分であるかな、普通かな」と話していたところが、他のコミセンも同じようになっているとすれば、他の協議会も同じようなところで悩んでいるというのがわかって、努力はしているけれどそう簡単には解決できないということがわかり、気が楽になる。

【委員長】こんな分布だという結果を示すぐらいは可能であるが。

【委員】名前を全部消し、A、B、C、Dとするか。

【委員】同じような内容や考え方、共通の悩みを持つコミュニティ協議会で集まるのはどうか。

【委員長】共通の悩みを対処していて、その場で意見交換できると一番いいと思うし、それをねらって集まってもらっているというところもあるが、そこまでの余裕がない。

【委員】何も出さないわけにはいかないと思う。

【委員長】パターンで幾つかに分けられる可能性はあるのか。

【委員】項目ごとに具体的に線を引いて、平均点より低いところは問題点という項目にする。

【委員長】項目ごとの集計結果を示すという手もある。

【委員】コミセンによってつけ方が違うので、そのコミセンの平均点を取り、その平均点に対してどうなっているかという標準化していくやり方はどうか。

【委員長】現実にはその方が正しいのだが、わかりづらくなる。

【委員】客観評価ではないので、それはどうかと思う。

【委員】データとして出すのではなく、評価委員会で議論する上でこの項目は低い評価されているなということをチェックするためのものだ。

【委員長】その手の幾つかの集計を確認しながら、次回話した方がいいと思う。そういう資料は作る必要があるので、私の方で考えてみる。当日、各協議会に渡す資料は、自分たちがどれくらいかというのがわかる個々の項目の単純集計の方がわかりやすいと思う。

【副委員長】自己採点、自己評価と言うのであれば、比較することは意味ない。表を作ること自体意味がないし、集計に意味がない。

【委員】そうだと思う。これは自己評価だからかなり厳しく自分たちに対してやったところはあるかもしれない。そういう意味では、自己点検するための良い資料になっていることは確かだ。

【委員長】各コミセンにどこがどうなっていて、どこが低いかというのを見てもらいたい。

【委員】自分で自分の弱みはどこだと発表してもらい、「どこのコミセンは高いので、どうやっているのですか」という質問になるといいと思ったのだが。

【委員長】我々が分析する分にはそういうものをいくつか出して見てみればいいと思うのだが、意見交換会の場ですすものとしてどういうものを用意するのが適切であるかはもう少し検討が必要である。

意見交換会の日程だが、事務局に各コミセンの予定を調整していただきたい。

次回の評価委員会までに、文化祭の視察等で係わったコミセンの評価表を見て、ご意見があれば事前に寄せていただく。また、各協議会の運営委員会を傍聴し、評価の内容を見ていただき、それぞれの協議会に質疑応答、意見交換をした方がいいだろうという部分を具体的にメモで準備していただきたい。

集計の目安についてだが、わかりやすい形で集計する手立てを私の方で考える。

それでは、今回はそれらを整理していくので、ご協力をいただければと思う。

### 3. 次回の日程

11月10日（木） 19：00～